

持続可能性評価で融資

商工中金全国初 白石倉庫に1億円

商工中金は11日、持続可

能な社会の実現を金融面で支える「サステナブルファイナンス」の一環として、倉庫業の白石倉庫(白石市)に1億円を融資したと発表した。事業のサステナビリティ(持続可能性)を評価した上で、融資期間中に環境負荷低減などをさらに高める目標を設定し、達成に向け伴走支援する。商工中

金がサステナビリティの達成目標を具体的に設定し融資するのは全国で初めて。

白石倉庫は白石市や仙台市で農産物などを保管する倉庫を展開する。定温倉庫の保管能力は約4万3000トで、宮城県で最大規模を誇る。調達した資金で保管能力を引き上げ、来年3月までに5000ト分を拡

張する計画。

商工中金は融資に当たり、白石倉庫と共同で「ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書」を策定した。白石倉庫は全国の倉庫会社と災害時の相互支援体制を構築しているほか、環境面でフォークリフトを電氣化したり、段ボール排出量を減らしたりしていることなどを評価した。

評価書では、荷崩れしにくい国産大豆用紙袋の開発や青果用コンテナのリサイクルの拡大、従業員の幸福度指数の向上など今後の取り組みに関し数値目標を掲げた。融資期間の7年をかけて達成を目指す。

商工中金は目標達成に向け、毎年モニタリングを実施し、支援を続ける。担当者「白石倉庫はサステナビリティの意識が高く、全国第1号案件にふさわしかった。大企業がサステナビリティの取り組みを進める中、取引先の中小企業も環境負荷低減などが求められている」と話した。